

総合部会 主要意見

日 時：H20.10.20（月） 15:00-17:00

場 所：県庁6階第1会議室

1. ビジョン策定の進め方等について

- 過去の踏襲の先に将来を描くのがこれまで。先に、あるべき姿を描いて、取り組んでいくのが今回のビジョンである。
- 時代に陳腐化しない構想をつくるために、プライオリティーが高いものをあげ、議論を深めて行く方がよいのではないか。
→タブーなく、自由な発想でどんどん意見を出して欲しい。
- 様々な意見を踏まえ、ビジョンとして、科学的、客観的な観点から収れんさせる必要がある。
- 県、国の各々が実現可能なことについて論点整理した案を提示し、的を絞って議論を進めていくべきだ。
→ 最初から国、県ができることを分けずに、あるべき将来像を考えていくべき。
- 沖縄経済は何を目指していくかを明らかにする必要がある。
- 都市化の進展と今後の方向性をどう整理するかが必要だ。
- 基地問題をどう整理していくか。
- ビジョンを策定する際に、時代潮流と課題が大切だ。時代が変化していく中、ビジョンの骨子案はどういうものか、課題はこれだけなのかなど、意識をしながら議論していくことが重要。
- 各論にとどまらず、各委員の情報知恵を活かしながら議論していくことが必要である。問題、課題を出して行って、それについて議論していく方がよい。
- 総合部会の場は、県に要望するのではなく、自分達で考える場である。委員各自が自分の持っている情報をどんどん発信して、この部会でひとつのものとしてまとめていった方がいい。それを県にぶつけていった方がいい。

- 沖縄固有の課題を整理した上で、可能性を追求していくべき。
- 県民と正面から議論する必要がある。

2. ビジョンを策定する上での課題について

- 環境は、産業廃棄物やゴミ問題としてだけではなく、エコ関連産業、静脈産業という観点からも考えていくべき。今後、大学院大学など試験研究機関が増えると思うが、そこから、試薬や実験動物の処分問題がでてくるのが予想できる。
- ビジョンで、沖縄企業の体質改善をできるか、考える必要がある。沖縄の企業は待ちの姿勢で、仕事をとるノウハウが足りない。下請け、孫請けを元請けにする、企業を元気にする等の取り組みが必要。
- 基本的な考え方の課題で、産業について記述がない。産業は沖縄の将来を考えるうえで、必須である。
→ 産業構造のバランスを本当にとる必要があるか、県内企業に限定する必要があるかなど、タブーなく議論して欲しい。
- 教育について課題の項目を増やして欲しい。教育機関の質を高める、一人ひとりの子供の付加価値を高める教育を受けさせるといった施策は、県主導でできる。

3. ビジョン策定する際の大切なことについて

- ビジョンを策定する際、法の整備と人材の育成が大切だ。
- 地域と行政のあり方を議論する必要がある。
- 県が考えている大きなビジョンと市町村が考えているビジョンをしっかりとすりあわせ、現場レベルで通用するものにしなければならない。
- 危機感をもたなければいけないことを思い切って話し合う場を県がつくっている。県は気合いが入ってる。

4. ビジョンの影響力について

- 福祉は、市町村が窓口。福祉事業を実際に執行している市町村にどれだけ取り組んでもらえるか。
- 福祉は、ビジョンを考える上で、とても大切な分野。市町村だけでなく、広域でやる必要があるものは何かなど、議論したい。

5. ビジョン策定のプロセスについて

- ビジョンづくりのプロセスを一つの技術開発として捉えていく必要がある。まだ、トレンドを読み切れない時にどういった手法で分析、集約していくか、テクニカルな手法を持つ必要がある。
- ビジョンと並行して総点検を実施し、ビジョンを実現するための戦略は、その結果を踏まえ議論する。

6. その他

- ビジョンのボリュームを議論する必要がある。
- 現時点の想定では、50ページくらいのボリュームを考えている。

- ビジョン策定したら、終わりか？
- ビジョン策定後、ビジョンの実現に向けた基本計画、実施計画など策定する必要があるという認識。

- 少子高齢化とあるが、世界的に観ると人口増加している。もっと様々な方面からデータ、情報をしめすべきではないか。

- 食料問題と環境問題など、関係が深いと思うが、そのあたりを整理して、統計資料を提示していくべき。